

令和3年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

(1) 都立大島海洋国際高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）

(2) 学校・内部委員及び事務局の構成

校長、金城副校長（評価委員・副委員長）、山中経営企画室長、主幹教諭・教務担当（評価委員）、主任教諭・進路指導担当、主幹教諭・生活指導部担当、主幹教諭・寄宿舎担当、主幹教諭・海洋・安全管理部担当 計8名

(3) 協議委員の構成

首都大学東京准教授、大島町教育文化課長、大島町立第三中学校長、元大島南高等学校PTA会長、大島町観光協会会長、伊豆大島ジオパーク推進委員、現PTA会長（評価委員・委員長）、現PTA副会長 計8名

2 令和3年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日、出席者、内容、その他

第1回 開催日 令和3年6月24日（木）

コロナウイルス感染症対策により書面開催

第2回 開催日 令和3年10月14日（木）書面開催

学校の現状説明、学校評価アンケートの内容検討等について書面により意見交換を行った。

第3回 開催日 令和4年2月3日（木）書面開催

これまでの教育活動に関する報告、学校評価アンケート結果の報告、本校の今後の在り方に関する調査の分析結果について書面により意見交換を行った。

(2) 評価委員会の開催日、内容、その他

第1回 開催日 令和3年 6月24日（木）

コロナウイルス感染症対策により書面開催

第2回 開催日 令和3年 10月 14日（木）

今年度のアンケート内容について書面にて意見交換

第3回 開催日 令和4年 2月 3日（木）

今年度の「評価報告書」のまとめ及び報告書に基づいた「提言」について書面にて意見交換

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

(1) 学校評価の観点

「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

実施時期は全て2月

- ・対象：全校生徒 規模：201人
- ・対象：保護者全員 規模：201人
- ・対象：地域・住民 規模：169人
- ・対象：教職員 規模：50人

(3) 主な評価項目

- ・学校生活、安全指導、学習指導、進路指導、生活指導、特別活動、施設・設備など。

- ・平成30年度より「ライフ・ワーク・バランスの推進」に関する評価項目を追加
- ・令和3年度より「いじめ防止の取り組み」に関する評価項目を追加

(4) 評価結果の概要

全体的に否定的なポイントがやや増加している。

- ・2「学校生活は充実していますか(学校生活)」については前年度比で否定意見が微増
- ・3「安全・安心な生活を送れるよう、人権を尊重する意識が持てましたか(安全指導)」については、前年比で増加し、生徒は学校の姿勢に理解を示している。
- ・5「基礎・基本を重視しわかりやすい授業が行われているか(学習指導)」については、前年比で肯定票が微増し全体の9割を占めている。

この3や5についてはコロナ禍でのWEB授業などの経験の蓄積でより効果的な指導ができるようになったことが改善につながったと推察される。また一方で対面授業が減ったことにより成績不振者への配慮が一層求められるようになり、教職員全体として授業改善等の取り組みを進める必要性が明らかになってきた。

(5) 評価結果の分析・考察（アンケート集計結果を参照）

- ・「体罰」に関する項目では、昨年度から大きな変化ないが、保護者において否定的意見が増加している。生徒においてもやや否定意見が増加している。この結果を教職員で真摯に受け止め、指導を見直していく必要がある。
- ・今年度は進路指導に関して全体で肯定的意見の増加が見られ、8割を超えた。各学年担任や進路指導キャリア教育部の取り組みの成果といえるが、特にコロナ禍においてもWEBや電話での個別指導をきめ細やかに行った3学年担任団の影響が大きいと思われる。
- ・「ライフ・ワーク・バランス」に関する項目では、保護者において肯定的意見が増加している。特に当事者の教員は負担感が増えていると感じている。コロナ禍による変則的な対応によることと舎監業務の負担が原因であることが考えられる。労働環境の改善が課題となっている。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・昨年同様、ボランティア活動、地域行事への参加、部活動結果等について高く評価されていることが分かった。
- ・5代目大島丸の運航について地域の方々も大きな期待を持っていることが分かった。
- ・海国祭の開催について、コロナ禍においても工夫して準備していることへの理解が得られ、地域の中での本校学校行事への期待の大きさが感じられた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・地域で本校の生徒の挨拶について消極的になり元気がなくなると受け止められている。
- ・5代目大島丸が波浮港へ入港できないことを地域の方たちが残念に思い、気に掛けている。5代目大島丸の運行、生徒の乗船予定について出来る限り情報発信することが求められている。
- ・ライフ・ワーク・バランスの質問から、本校の教職員の在校等時間の実態について、感染症対策による影響もあり昨年度と変化がない状態である。特に教員の側においては超過勤務や舎監業務に関する負担の削減は引き続き課題となっている。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

- ・生徒・保護者に対して、あらゆる機会に学校の教育方針を説明し理解を得る。

(2) 学習指導

- ・本校の宅習や家庭学習を活用した学力向上の取組を確実に実施する。その上で、国レベルでの大学入試における「高大接続システム改革」に対応した教育内容を検討し、本校としての取組の方向を検討・実践することが求められている。これに関連して、学校での通常授業や寄宿舎の「宅習」の内容・取組について、寄宿舎での WiFi 環境の整備完了により令和3年度に引き続いて学習コンテンツを活用したオンライン学習を推進する。

(3) 特別活動

- ・感染症対策による部活動の中止・自粛による生徒の目的意識や心的ストレスが蓄積されている。しかしながら、ガイドラインに基づく徹底した感染対策と健康観察により、安全・安心な大会運営等が徹底されていることから、ウィズコロナを見据えた活動の充実や心のケアが必要である。

(4) 生活指導

- ・オンライン等を活用し教職員と保護者とが連絡を密にし、よりきめ細やかな指導を心がける。

(5) 進路指導

- ・1学年から卒業までを見据えた継続的な意識づけの必要性
- ・キャリア教育の組織的な展開、キャリアパスポートの活用
- ・寄宿舎での生活や学校での学習について組織的な教育相談体制の継続

(6) 健康・安全

- ・「安全指導の日」を中心とした生命、人権の尊重に対する意識教育を徹底する。
- ・校舎（寄宿舎）老朽化について、本校生・中学生共にマイナスイメージであることを考慮し、可能な範囲で迅速に修繕等の対応を行い、同時に修繕の進捗状況を情報共有する。

6 「学校が良くなった」と答えた協議委員の割合

(1) 協議委員人数 8人(採点時4人)

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
	3					5

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績

【実績】 職員会議及び企画調整会議への参加は今年度実施していない。